

# Significance of hypovascular lesions on dynamic CT and/or EOB-enhanced MRI in patients with hepatocellular carcinoma

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-03-20 キーワード: 作成者: 行田, 悠 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002027">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002027</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1858 号

Natural course and clinical implication of hypovascular lesions on dynamic CT and/or Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI detected during the diagnosis of hepatocellular carcinoma

(肝細胞癌に対する肝切除後患者におけるダイナミック CT と EOB-MRI における乏血性腫瘍の自然転帰と臨床的意義)

行田 悠 (ぎょうだ ゆう)

博士 (医学)

#### 論文内容の要旨

ダイナミック CT と EOB-MRI で乏血性となる腫瘍の自然経過とその臨床的な意義について検討した。肝細胞癌に対して当科で肝切除を施行した患者のうちで術前にダイナミック CT と EOB-MRI の双方を施行した 111 人を対象とした。まず、ダイナミック CT 門脈相と EOB-MRI 肝細胞相における乏血性腫瘍の検出能を比較した。合計で 54 個の乏血性腫瘍を認めた。EOB-MRI で認めた腫瘍は 51 個、ダイナミック CT で認めた腫瘍は 21 個であり EOB-MRI の検出能が有意に高かった ( $P<0.001$ )。11 個の乏血性腫瘍は肝切除施行時に主病変とともに切除されたため 43 個の乏血性腫瘍が非切除であった。これらからの 3 年の癌化率は 52.2%であった。その中で 34 個は EOB-MRI のみで描出され、9 個はダイナミック CT と EOB-MRI の双方で描出された。3 年でのそれぞれの腫瘍の癌化率を比較すると 39.2%と 62.5%であったが有意差は認めなかった( $p=0.29$ )。また、乏血性腫瘍は 10mm 以上のもので癌化率が高い傾向を認めた( $p=0.053$ )。次に、経過観察中の乏血性腫瘍の癌化率とそれ以外の部位からの肝細胞癌の発生率を患者毎で比較した。3 年でそれぞれ 62.2%と 55%であり有意差は認めず( $p=0.83$ )、乏血性腫瘍以外の部位からも肝細胞癌が高率に発生していることがわかった。最後に、乏血性腫瘍を認めた患者と認めなかった患者での乏血性腫瘍以外からの肝細胞癌発生率を比較した。その結果、乏血性腫瘍を認めた患者の癌発生率が高い傾向にあることがわかった。以上の結果より、術前に乏血性腫瘍を認めた患者は術後に乏血性腫瘍が癌化するリスクは高いが、乏血性腫瘍以外から肝細胞癌が発生することも多く、乏血性腫瘍を主病変の肝切除時に同時に切除することは安易に推奨できないと考えられる。